

第10回地域福祉推進のための講演会 開催記録

1 概要

- (1) 日 時 平成27年3月21日（土）午後1時30分から午後4時40分まで
- (2) 場 所 長久手市福祉の家 集会室
- (3) テーマ 「わたしが変わる子育て！」
- (4) 講 演 「お父さん、お母さん、自分を大好きになりましょう」
講師：島田妙子氏（株式会社イージェット代表取締役）
- (5) 対 談 「生まれてくれて、ありがとう」
島田妙子、朝倉三恵
コーディネーター：富岡亜希子（長久手市社会福祉協議会）
- (6) 参加者 105人
- (7) 報道機関 ひまわりネットワーク、ラジオサンキュー

2 開会 あいさつ（福祉部長）

本市では、新しいまちづくりの仕組みとして、お互いに顔の見える範囲である小学校区単位でのまちづくりを進めています。

社会福祉協議会では、地域住民が見守りの必要な方などに気づき、なるべく早く専門家につなげることができる、そんな仕組みを住民の方とともに話し合い、作っていく小学校区単位の「地区社協」を作るため、地域の方に集まっていただき、学習会を重ねています。地区社協には、「CSW」といって、地域において、支援を必要とする人の援助を行うとともに、地域における支援方法を考えたり、公的サービスにつないだり、コーディネートを行う専門の職員を配置し、地域の困りごと、不安をいち早く察知し、支援できる体制を目指しています。

本日お話しいただける島田様、朝倉様は、それぞれのご自身のお辛い経験も含めて様々な経験を踏まえ、みなさまに一人の人間を育てることの大切さ、素晴らしさをお話しいただけるとと思います。

講演会終了後には、お二人を交えた交流会もあります。今日は、たくさんの子育て中のお母さん、お父さん方にお越しいただいていますので、初めての方ともお知り合いになるきっかけの場としてご参加ください。

3 講演「お父さん、お母さん、自分を大好きになりましょう」

講師：島田 妙子氏

- ・4歳の頃、両親の離婚で兄2人と児童養護施設に入所し、7歳の時、父の再婚で家庭に復帰したが、継母と実父による壮絶な虐待が始まり、何度も命を落としかけた。結婚後は専業主婦として、アスペルガー症候群の長男を含む3人の育児をしてきた。そこに義母の介護が加わったが、手作りの食事にこだわり、精いっぱい頑張り「大丈夫」とこなしていた。働いてくれている夫にも相談できず、帰宅した夫を無視して、子どもにきつくあたってしまう。こうした状況が続き、社会で、自分だけが苦勞している、自分だけが被害者と思い込み、誰も何もしてくれない、「くれない病」にかかっていた。
- ・ある日、ついに息子にきつくあたってしまった。情けなくて泣いてしまい、食事を作るどころではなかったので、子どもに「お母さんは大丈夫じゃない」と言って、食事にレトルトカレーを出した。「おいしい」という言葉で、自分が「くれない病」だったと気づき、ふっと肩の力が抜けたきがして、その日に家族に謝った。イライラを、家族の話し合いで解消することが大切。
- ・平成22年末、心の支えにしてきた次兄が白血病で他界した。それ以降、子どもを、他の子と比較してしかることをやめた。できることをオーバーに褒めるようにしたら、できないことに挑戦するようになった。今、義務教育での命の大切さを教える活動に力を入れている。
- ・子どもが問題をかかえると、子どもよりも先に飛んで行って親が解決していくヘリコプターペアレンツという言葉がある。結果として、何もできない子どもになってしまう。私は、子どもに躰糸をつけるようにしている。躰糸とは、裁縫の用語で、目安になる糸のことで、子どもに躰糸に沿って縫わせると、雑な子、自由にそれていく子、ミシンのように正確に縫う子、いろいろいる。
- ・長女が16歳になるまでは専業主婦だったが、仕事をするようになり、忙しくなって子どもとの距離が心配だった。そこで、毎年、誕生日に膝と膝をつきあわせて、子どもに愛していること、信用していることを真剣に伝えるようにしている。親がいない場合は、先生にその役割をお願いしている。
- ・子どもにとって、意見のぶつけ合いは必要。それをせずに、コミュニケーションの仕方が分からずに陰湿なイジメに発展してしまう。
- ・「くれない病」にかからないように、感謝力をつけて、元気で動ける間に「命」をしっかり使ってほしいと思います。そうして子育てを乗り越えたら、次の世代のお母さんを手伝って助けてほしい。

4 対談 「生まれてくれて、ありがとう」

出演：島田 妙子

朝倉 三恵（NPO法人愛知ネット職員）

コーディネーター：富岡 亜希子（長久手市社会福祉協議会）

（朝倉）

長男が2歳の頃、小児ガン的一种、神経芽腫と診断され、以後5年間入退院を繰り返した。子どもの、どんな時も「ありがとう」を忘れない姿や、あきらめない姿を伝える活動をしている。

《DVD鑑賞（5分）》

（富岡）

「大丈夫じゃない」と言える心の持ち方、コツはあるか？

（島田）

近所の人に子育てを手伝ってもらうために、片付いていない自分の家の中を見せた。まずは、近所同士の助けあい。

（富岡）

ネットに頼るより、近所の人に助けてと言うということですね。

（朝倉）

ふだんから、頑張りすぎないこと。

（富岡）

次に、「子どもを他の子どもと比較しない」点について、親としてはついつい比べてしまう。考え方を变える方法がありますか？

（島田）

感謝を、声に出して繰り返すこと。

（朝倉）

90点で合格のテストで89点だった子どもに対し、「よかったね、頑張る機会が増えたね。」と声をかけた。翌日は90点だった。

（富岡）

お二人とも本当に明るい。ストレス解消法はありますか？

（朝倉）

ストレスのたまった日は、子どもにあたってしまう。でも、すぐに謝る。

（島田）

できないことは、はっきりとできないということ。最近、立ち飲みの居酒屋で1人で日本酒を飲み、知らない人に愚痴を聞いてもらい、ストレス発散する。

あと、「アンガーマネジメント」を勉強した。怒りの持続は6秒。怒りのコントロールができるようになった。

(朝倉)

自分は、いい子でないといけないと思い、欲しいものを欲しいと言えずに育ってきた。だから、子どもには素直な気持ちを言えるように育ってほしい。

(富岡)

いつもニコニコしているママが、子どもにガンガン怒っているのを見て、驚いて尋ねると「親は神ではない。社会に出れば八つ当たりされることもあるから、人には感情があることも子どもに伝えたい。」と言われたことがある。

お二人は、子どもの反抗期をどのように乗り越えたか？

(島田)

子どもに長時間怒るのは、虐待にあたるので賛成はできない。長女の反抗期は大変だったが、子どもに優しくした主人がガツンと怒ったことで、態度が変わった。

(富岡)

家庭内でコミュニケーションをとるための工夫や、家訓・約束事はあるか？

(朝倉)

家訓はないが、人を傷つけないこと、ゲーム禁止、我が家では、子どもたちもゲーム用語などの「死ね、殺せ」は禁止、夕食は必ず一緒、休日は小2・小4の子どもが朝食を作る、といった約束がある。

(島田)

誕生日ひざを突き合わせたメッセージと必ずあいさつをすること、家族5人は畳部屋と一緒に布団で寝ている。

(富岡)

最後に、メッセージをお願いします。

(島田)

子育ての経験を生かして行ってほしい。

(朝倉)

自分を好きになってほしい。

5 交流会（約20分）

フードバンク団体「NPO法人セカンドハーベスト名古屋」からクッキー、缶ジュース、缶コーヒーが提供された。30人程度が参加し、和やかな交流会となった。